

思いやりを育てる学級経営

～ 主体的に考え自発的に行動できる話し合い活動を通して ～

目 次

I	テーマ設定の理由	41
II	研究仮説	41
III	研究の全体構想	42
IV	研究の内容	43
1	友人関係からみる児童の実態	43
	「トラブルに関するアンケート」の分析から	43
2	「思いやり」について	47
3	学級経営と「思いやり」	47
(1)	「思いやり」を育てる場としての学級	47
(2)	学級経営の重要性	48
4	学級経営における「思いやり」を育てるための工夫	49
(1)	日常活動における工夫	49
①	学級の歌の作成と愛唱	49
②	「友達発見カード」の書き込みと発表	49
③	「ごめんねシート」の活用	50
(2)	授業における工夫	51
①	「立場を変えて考える」ためのワークシートの活用	51
②	話し合い活動による工夫	52
5	学級活動の展開	52
(1)	題材名	52
(2)	本時までの指導計画	52
(3)	本時の活動	53
(4)	話し合い活動の観点別評価	55
(5)	授業仮説の検証	56
(6)	授業研究会の反省	56
6	本研究における研究仮説の検証	57
V	研究の成果と今後の課題	60

思いやりを育てる学級経営

～ 主体的に考え、自発的に行動できる話し合い活動を通して ～

宜野湾市立大山小学校 教諭 伊良波 聡

I テーマ設定の理由

今、社会が急速に発展していく中で、子どもたちの生活は大きく変化してきている。物質が豊かになり、情報が溢れる時代にあって、それぞれの個性が尊重され、国際化時代に対応できる人間を育成する教育が叫ばれてきた。しかし一方では、全国的にいじめや不登校などが増加し、早急に解決されなければならない課題を背負っている。

こうした実態を生み出す一因として、子どもたちの生活や行動の変化に伴って、友人関係が希薄になったことが挙げられる。以前は、多くの友人とともに外で遊んだものが、今はビデオやテレビゲームが普及し、室内で一人遊びをする子が増えている。その結果、相手の立場になって考えるといった態度を、集団生活の中から学ぶ機会が少なくなった。

特別活動の目標には「望ましい集団活動を通して、協力してよりよい生活を築こうとする自主的、実践的な態度を育てる」とあり、学級活動においては「望ましい人間関係の育成」が謳われている。こうした課題を教育的に解決するには、学級経営を中心とした活動に注目する必要がある。

これまでの自分の学級の様子に目を向けてみると、お互いが自分の意見を主張するあまりに言い争いとなり、ついにはグループによる対立にまで進行する場面や、おとなしい性格の子に対して、誰も遊びに誘おうとしないなどの状況が見られることがあった。また、今までの学級経営を振り返ると、思いやりをもって接する指導が十分に行われていなかったことが反省される。

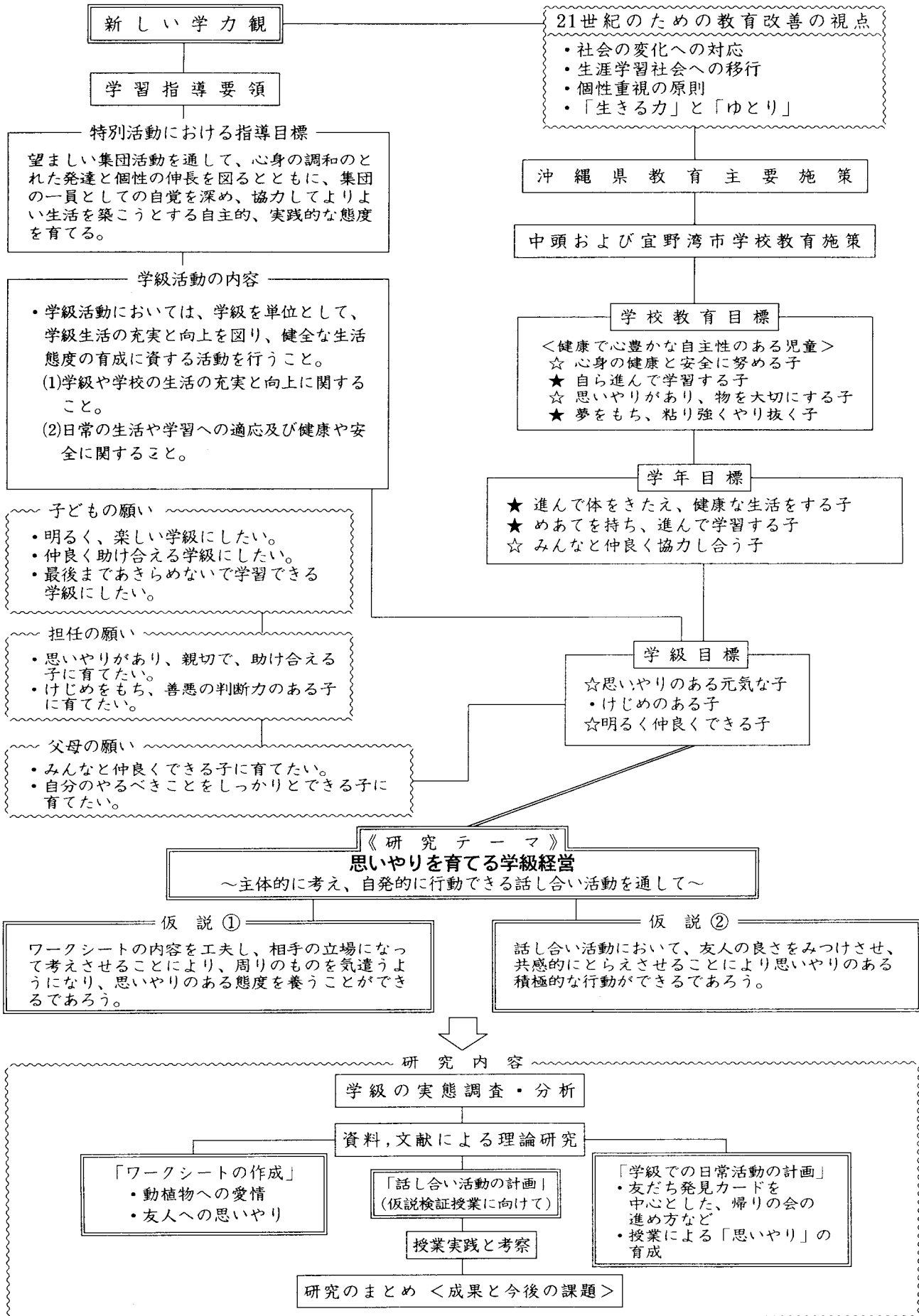
このようなことから、学級という集団生活の場を通して「思いやりのある態度」を育てることが、よりよい人間関係を築くために重要であると考え、学級経営における指導の工夫を行うことにした。そのためには、まず相手の立場になって考える活動を取り入れ、思いやりのある態度を育てたい。次に、相手を思いやる心が、積極的な行動として表現できるように指導したい。

以上のことを踏まえて工夫、実践を図ることにより、友人に思いやりをもって接することのできる子が育つだろうと考え、本テーマを設定した。

II 研究仮説

- ① ワークシートの内容を工夫し、相手の立場になって考えさせることにより、周りのものを気遣うようになり、思いやりのある態度を養うことができるであろう。
- ② 話し合い活動において、友人の良さを見つけさせ、共感的にとらえさせることにより、思いやりのある積極的な行動ができるであろう。

III 研究の全体構想図



Ⅳ 研究の内容

1 友人関係からみる児童の実態

「トラブルに関するアンケート」の分析から

本研究テーマの素地となる現学級児童の学校生活でのトラブルの発生状況と、その時の心理状況を把握するため、新学年に進級してから現在（4月～5月）までの2カ月間に起こった、もんくの言い合いやケンカなどのトラブルについてのアンケート調査を実施した。アンケートの内容と結果、考察は、次の通りである。

調査実施月日 平成9年6月4日（水）3校時 調査対象学級 大山小4年2組
 調査人数 男子17人 女子19人 計36人（欠席 男子1名）

質 問

これは、4年生に進級してから起こった、もんくの言い合いやケンカ(手を出した)についての質問です。

A. あなたは、もんくの言い合い、またははケンカをしたことがありますか。

結 果

「もんくの言い合いだけをした。」	「どっちもしたことがある。」
計 男子 女子 %	計 男子 女子 %
14/36 = 7/17 + 7/19 40	14/36 = 8/17 + 6/19 40
「ケンカだけをした。」	「すでに言い合い、または
0/36 0	ケンカをした。」
「どっちもしたことがない。」	28/36 = 15/17 + 13/19 8
8/36 = 4/17 + 4/19 23	

考 察

進級して2カ月の間に、40%の子が、言い合いを経験している。ケンカだけをした子はおらず、ケンカを経験者は必ず言い合いをしていることがわかる。双方を合わせると、学級の約80%の子はすでにトラブルを起こしており、その数は、男女別に見ても、大差はない。

このことから、1年間のうちには、ほとんどの子が必ずトラブルに関与するだけでなく、むしろ数回関わる可能性さえあることがわかる。また、トラブルに関与しない子が36人中8人いる。トラブルに関わった子や、トラブルを起こさない子の心理については、以下の項目で分析する。

質 問

B. どっちもしたことがない人だけ書いてください。どうして、もんくの言い合いやケンカにならないのですか。

結 果

「もんくを言われても、言い返さない。」2人 「みんなこわそうなので反抗しない。」1人
「もんくを言われることがない。」 2人 「みんな仲がいいから。」 1人
「ケンカは嫌い。」 1人 「よくわからない。」 1人

考 察

「気にしない」または「がまんする」ことで、トラブルを避けているような子が多い。トラブルが嫌いで、みんな仲がよいと感じている子の特徴としては、性格的にも穏やかである。また、学級のリーダー的存在の子が、比較的もんくを言われることがないと答えている。

質 問

C. もんくの言い合いやケンカをしたことがある人だけ書いてください。

① 何がもとで、そうなったのですか。

結 果

「友人がいじめられていたので、助けようと思って言い合いに加わった。」4人
「あだ名をいわれて腹が立った。」3人 「注意したら、逆にもんくを言い返された。」3人
「たい態度で、あしらわれた。」3人
「ちょっとした言い合いだったのに、先に悪口を言われた。」2人
「公共物の取り合いをしているうちにケンカになった。」2人
「命令をするような言い方をされた。」2人 「自分の物を勝手に使われた。」2人
「ふざけた態度でからんできた。」2人
「ちょっとやられた事にしかえしをしているうちにケンカになった。」2人
「とつぜん、なぐられた。」1人 「どっちが正しいかで言い合い。」1人
「まちがいをゆるしてもらえずに、言い合いになった。」1人

考 察

もんくの言い合いやケンカの原因を調べてみると、次のようなときにトラブルに発展する場合が多いことがわかる。

- ① 生活の中で友人と何げなく触れ合っているときに、相手が意外な冷たい行動に出る。
- ② 公共物なのに、相手が公平に貸し借りをしない。

- ③ ふざけ半分で、相手がいやになる態度をとる。
- ③ どっちも折れずに、頑固な態度をとり続ける。
- ④ 以上の結果を、アンケートのBを含めて考察すると、
「トラブルは、友人関係において、寛容な心と、相手の立場を理解・尊重する態度が見られないときに発生することが多い。」ことがわかる。

— 質 問 —

- ② あなたはそのとき、ほんとうは友だちに、どういうふうに言ってほしかったですか。または、どういうふうにしてほしかったですか。

— 結 果 —

- 「やさしく話しかけて（返答して）ほしかった。」 5人
- 「自分（みんな）がいやがることをしないでほしかった。」 4人
- 「自分のあやまちをゆるしてほしかった。」 3人
- 「自分の言ったことを、まじめに聞いてほしかった。」 2人
- 「悪いときは素直にあやまってほしかった。」 1人
- 「すぐにたたかないでほしかった。」 1人
- 「自分の物を借りたいときは、ちゃんと許可をもらってほしかった。」 1人
- 「ただ親友だからという理由で、相手の加勢をしてほしくない。」 1人

— 考 察 —

もんくの言い合いやケンカになったその後の心情をみると、トラブルに発展しそうなときに、自分やみんなの気持ちを尊重した言動や行動をとってもらいたかったというのがほとんどである。そこには、対応のまずさから結局トラブルに発展はしたものの、実際は平和な友人関係を望んでおり、お互いの心がけしだいで、それは可能であるという期待が伺える。

— 質 問 —

- ③ 友達の悪かったところは何でしょう。

— 結 果 —

- 「すぐに悪口を言い返す。」 5人
- 「すぐに手を出す（足でける）。」 5人
- 「自分の都合ばかり考える。」 4人
- 「ふざけすぎている。」 2人
- 「明らかに悪いのに、認めない。」 2人
- 「言い分を聞こうとしない。」 2人
- 「トラブルの原因を解決しようとしなない。」 2人
- 「いやがらせをする。」 2人

「まじめに取り合わない。」1人「すぐにおこる。」1人「仲間はずれにする。」1人

— 考 察 —

本項目では、トラブルがあると答えた28人中27人(96%)が回答しており、最も回答率が良い。トラブルの原因は相手の否だとする心理が、微妙に現れているようにも受け取れる。友人のとった行動でトラブルの原因となったトップは、突然の暴力的態度(言動を含む)である。回答の内容から、相手の自己中心的な考え方や、トラブルを回避しようとしめない態度にも、いらだちをみせていることがわかる。

— 質 問 —

④ 自分が悪かったところは何でしょう。

— 結 果 —

「やめようと思えば、すぐやめられたのに、もんくを言い返し過ぎた。」8人
「すぐにおこって、たたいて(けて)しまった。」4人
「それまでの自分の行動がわがままだった。」3人
「やさしい気持ちで接することができなかった。」1人
「状況をかんとんに考えすぎた。」1人 「自分の言い方がよくなかった。」1人
「意地を張りすぎた。」1人 「悪いと思っているのに、あやまれなかった。」1人
「状況がよくわからないのに、友人の加勢をしてしまった。」3人
「そのとき、べつに自分は悪くなかった。」2人

— 考 察 —

本項目の回答で、特に注目したいのは、トラブルの当事者であるほとんどの子が、自分のとった行動について反省していることである。すぐに怒ってもんくを言ってしまうたり、たたいたりしたことを気にしており、思慮が足りなかったことを痛感している。また、自分のこれまでの生活態度が、相手を怒らせた原因になっていると考え、自らの過去の生活ぶりを反省する子も見られる。さらには、自分が悪いのだと思いながら、そのとき素直にあやまれなかったなど、問題を解決するために心の葛藤があった子もいた。このことから、友人とのトラブルの原因については、相手の言動や行動と共に、自分自身も気をつけるべきことがあると考えていることがわかる。

＝アンケートの全体考察＝

友人関係でトラブルが起きたときの心理状態を分析すると、子どもたちは、

- ① トラブルが起きるときには、自分自身も落ち込んでしまう。
- ② 誰もが、トラブルは起きず、平和な友人関係が保てるように願っている。

ことがわかる。そこで、アンケート結果から、友人関係を円滑に保つためには、次のことを心がける必要がある。

③ お互いに、寛容な心を持ちながら、関係を保っていくこと。

④ 相手の立場を理解，尊重する態度をもつこと。

以上の分析結果を、本研究を進める上での参考にしていく。

2 「思いやり」について

「思いやり」は、辞書においては「人の身を推し量って同情する」とある。ただ実際には、誰かが同じ行動をとったとしても、ある人はそれを思いやりだと感じ、もう一人の人は別の意味に感じることもある。つまり、ある行為が「思いやり」だと認識されるまでには、思いやりのつもりで行動した側と、それを受けた側の感じ方が一致しなくてはならない。そのためには、単に相手の身を推し量るだけではなく、今自分がやろうとしていることが、その人の為になることであるかを、しっかりと判断しなければならない。相手が、単なるおせっかいではなく、自分の為に必要とされた援助や協力であると感じなければならないのである。こうしたことから、思いやりを育てるには、自ら思いやりを持つ姿勢を身につけると同時に、日頃から、相手に関心を持ち、その立場を理解しようとすることも重要になってくる。

また、思いやりは、自分への利害が主となって現れるものではない。「自分が～をしてあげたら、相手は～してくれるだろう。」という考えのもとでは、真の思いやりが芽生えているとは言えない。

そこで、真の「思いやり」とは、

① 相手の立場を深く理解した上で、その身を推し量って同情すること。

② 自分への見返りを考えず、相手に奉仕する気持ちをもって関与すること。

と、受け取ることができる。

本研究においては「思いやり」を、上記のように思いやる側と思いやられる側の、双方の心情的な受け止め方だけに限定せず、「実際に行動として表すこと」に重点をおいて研究を進めた。

3 学級経営と「思いやり」

(1) 「思いやり」を育てる場としての学級

学校は、学級という単位の集まりのもとで存立しており、学校教育は、その大部分を学級単位で行う。学級は、一人の教師が多数の子どもを同時に教育できる利益があり、子どもと教師、子ども相互の人間関係を通して、学力や人格を発展させ、社会の一員として必要な人格を形成する場だといえる。したがって、学級は、子どもにとって、次の点で影響を与えている。

- ① 学級は、子どもの知・徳・体の成長、発達を促進するためにつくられた集団であり、子どもは、そこで共通の目標をもち、共通の経験をし、その結果として、共通の理解に達することができる。したがって、学級での学習活動や係活動により、責任感や協力的態度を養う場だといえる。
- ② 学級には、学級特有の雰囲気ができる。学級の子どもは、学級の中で安定した地位を得るために、意識的に学級の雰囲気に同調しようとする。したがって、学級は、子どもにとって、安心感の得られる場だといえる。
- ③ 学級では、指導者と従属者、尊敬される者と尊敬されない者、人気のある者と人気のない者などのように、学級における社会的地位や役割が自然にきまり、それは、子どもの行動や性格形成に大きな影響を及ぼす。したがって、学級は、子どもにとって、社会の仕組みを学習することにより、自らの性格を形成する場であるといえる。

以上の点からみると、思いやりを育てる場として、学級は重要な場であるということがわかる。

(2) 学級経営の重要性

学級を、経営されるべき組織と考えるとき、そこに学級経営という言葉が生まれてくる。学級が、子どもと担任教師で成立しているところから、学級経営とは、学級の子どもを教育していく上での、担任の経営計画と日々の運営のしかただといえることができる。その一例として、学級経営の内容を具体的に列挙してみる。

- ① 学校教育目標を具体化した「学級の教育目標」を立案する。それには、児童の実態に即した理想の児童像を含めながら、子どもたちとの話し合いの中で立案していく。
- ② 学級目標に到達するための「担任としての基本方針」を決定する。その方針の枠内で、学級は運営されていくことになる。
- ③ 学級目標を達成するために必要な「具体的方針」を決定する。そこには、学級における活動が、具体的に記されることになる。活動方法は、活動内容によって、基本方針の枠内であれば変更できる柔軟性を持たせたい。
- ④ 時期毎、あるいは学級内で起こった出来事などを勘案しながら、そのつど「指導の重点化」を図る。こうした工夫は、学級でのマンネリ化しがちな生活に、よい刺激となる。
- ⑤ 子どもの実態と変容に留意しながら「家庭・地域との連携」を図る。目標到達のために必要な面では、積極的に家庭・地域に協力を求め、オープンな学級作りを行う。
- ⑥ 学級経営は「学級の教育目標が達成されたか」で評価する。また、年度内でも具体的な実態把握ができるように、そのつど項目を決めて評価する。

特に、③の「具体的方針」は、しっかり立案しておきたい。学級経営当初での具体的な計画は、新しい学級に期待をよせる児童にとっても、大きな影響を与えるからである。それには礼儀作法、学級のきまり、掲示教育、係活動などがあり、また、その学級特有の取り組みなども含まれる。担任の人間性が活かされた、積極的な経営計画の立案が望まれる。

4 学級経営における「思いやり」を育てるための工夫

(1) 日常活動における工夫

① 学級の歌の作成と愛唱

<目的>

- 学級の歌をみんなで作成，愛唱することにより、①学校生活の緊張感をほぐす。
- ②学校生活にやる気を持たせる。③学級の連帯感を深める。

- 学級の歌の作成にあたっては、子どもたちからその内容を募集し、できるだけみんなの意見を取り入れた形で作成したい。
- 学級の歌は、朝の活動の時間や、行事の前、学級会の始めなど、学級の連帯感や楽しい雰囲気が必要なときに、そのつど歌わせるようにする。
- 「友達発見カード」の書き込みと発表

<目的>

- 友人の良い行動を日頃の生活の中から見つけることにより、友人の良いところに着眼する態度を育てる。
- 友人の良い行動を発表することにより、友人の良さを認めようとする態度を育てる。

《友達発見カードと記入例》

友だちのいいところ—— みつけたよ！

H9年 6月25日(水) あなたの名前 F

みつけてくれて、ありがとう！

きょうの主人公は E (くん) さんです。

E (くん) さんは、

① いつ 今日のほうかご
 ② どこで 教室で
 ③ だれに 私に
 ④ なにを、どのようにしてくれたのですか。くわしく書いておきましょうね。

ひきだしを落として、きょうかしが
 ばらばらになった時、それを
 E さんがひろってくれた。

⑤ そうですか。それはすてきなことですな。
 そのことについて、きみは、どう思ったのでしょうか。

もしも、たれかがこまった時は、
 自分もたすけてあげる。

ありがとう！あなたのおかげで、みんながいいきもちになりましたよ。
 これからも、きみの友だちのよいところを、どしどしみつけてくださいね。
 まっついでます！

- カードの内容は左図のようなものにし、毎日の学校生活の中で見つけた、友人のよい行動が、具体的に書き込めるようにする。
- カードは、よい行動を見つけたときに、すぐ書き込めるように、学級に常備しておき、自由に取らせる。
- カードはファイルに綴り、帰りの会などに発表させる。発表の際には、聞いた子どもたちは必ず拍手するようにし、よいことを見つけて発表した姿勢と、そこに書かれた子のよい行為を、尊重しながら讃える態度が身につくよう配慮する。

(2) 授業における工夫

① 「立場を変えて考える」ためのワークシートの活用

＜目的＞

- 相手の立場になって考える活動を行わせることにより、周りのものを気遣い、思いやりのある態度を養う。

- ワークシートの内容は、下図の通りにする。
- 植物、動物、人間（友人）の順で、立場を変えた考え方ができるように配慮、配列する。
- ワークシートの、友人の心情をとらえる設問では、内容を次のように細かく分けることで、自分の考えをまとめやすいように考慮する。


場面に遭遇している相手の気持ちを考えさせる。→ その場面が起きた原因を、相手や周りの友人の様子から考えさせる。→ 相手の立場を理解したところで、もう一度自分に戻り、自分が相手のためにできることを考えさせる。

- ① 自分が気をつけてあげられること。 ② 自分がアドバイスできること。


相手の立場になって考えてみよう
4年2組 番 名前

1. 次のマンガを見て、お話を考えましょう。


①




②



③



④

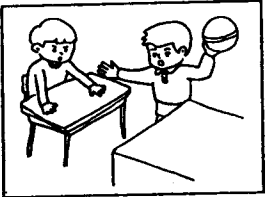


☆ 花は、ことばが話せません。もし話することができるあなたが花のかわりになって、話してみてください

友だちとのケンカについて

3. つぎのマンガを読んで、考えたことを書きましょう。


①



C君はD太郎君とケンカをしてしまいました。まず、C君の席の前から通ろうとしたとき、D太郎君が「そこ通るから、ちょっとバックしろ」と、言いました。すると、C君は「後ろから回って通れよ」と言って、席をひいてくれませんでした。

↓


②



D太郎君はムッときて、もんくを言いました。C君も、もんくを言い返してきました。

→

③



そしていつのまにか、とっくみ合いのケンカになってしまったのです。

☆ あなたは、なぜケンカになったと思いますか。くわしく書いてみてください。

- 内容はマンガで表現する。マンガ化することによって自由な発想を導き出すことができ、書き込みやすくなる。また、実際に立場を変えて書こうとしているかを自作の物語から把握することができる。

② 話し合い活動による工夫

＜目的＞

- ・話し合い活動において、友人の良さを見つけさせ、それに共感を持たせることにより、思いやりのある積極的な行動ができるようにする。

- ・これまでの日常活動と授業のステップアップとして、相手への思いやりが、積極的な行動に結びつくような話し合い活動を計画する。

5 学級活動の展開

学 級 活 動 指 導 案

平成9年7月10日（木）第3校時

4年2組（男子18名、女子19名、計37名）

授業者 伊良波 聡

(1) 題材名 「M君を学校に呼ぼう」

(2) 本時までの指導計画

研究仮説	① ワークシートの内容を工夫し、相手の立場になって考えさせることにより、周りのものを気遣うようになり、思いやりのある態度を養うことができるであろう。 ② 話し合い活動において、友人の良さを見つけさせ、共感的にとらえさせることにより、思いやりのある積極的な行動ができるであろう。
------	---

＜指導目標＞

＜手だて＞

〔日常活動〕

人間と集団生活（社会生活）について触れながら、コミュニケーションを持つことの大切さをとらえさせる。また、集団生活の一つである学校の意義をとらえさせる。	動物社会の在り方を教材にし、人間社会と比較しながら考えさせる（道徳）	自分のチャンピオン、友達発見カードの活用。朝の会、帰りの会を中心に。
自分の良いところを発表する中で、自分の良さに気づかせる。また、相手の発表を聞き、誉め称えることで、相手の良さをとらえ、友人を知ろうとする態度を養う。	自分の自慢発表をする中で、良いところに目を向ける態度を養う。（道徳）	学級の歌作成・愛唱
＜研究仮説①の検証＞ 相手の立場になって考えることで、そのときの相手の気持ちをとらえ、立場を理解することの大切さを知る。	ワークシートを教材とした授業（道徳）	
これまでに会った友人の思いやりのある行為を振り返りながら、進んで思いやりのある行為ができる方法を考える。	友達発見カードやワークシートによる授業（道徳）	

本時	＜研究仮説②の検証＞ 話し合い活動において、友人の良さをみつけさせ、思いやりのある積極的な行動がとれるようにする。	話し合い活動を中心とした授業（特活）
----	--	--------------------

＜本時に関わる児童の活動＞

	児童の活動	留意点		児童の活動	留意点		児童の活動	留意点
事前準備	・学級委員による計画委員会の各児童の発表の準備 ・掲示係による議題のお知らせ	・話し合い順の明確化 ・役割分担 ・前時で考えた自分の意見を発表しやすいようにまとめる	本時	・学級活動による話し合い ・これからの行動の明確化 ・事後感想をプリント記入。	・学級委員の仕事内容を明確にする。 ・自分の考えを文章化する（事後評価用）	事後	・自己記入のプリントに沿って、心の変容をとらえ、話し合う。	・本単元の授業前と授業後の心の変容が明確にとらえられるよう配慮する。

(3) 本時の活動

① ねらい

- ・学級の仲間意識を高め、思いやりをもって友人の気持ちを考えることができる。
 - ・相手の気持ちになって、自分の意見を積極的に述べるができる。
- (話し合い活動のねらい)

② 授業仮説

- ・これまでの自分の友人に対する態度をふり返させ、これからのあり方を考えさせることによって、相手の気持ちを理解することができるであろう。

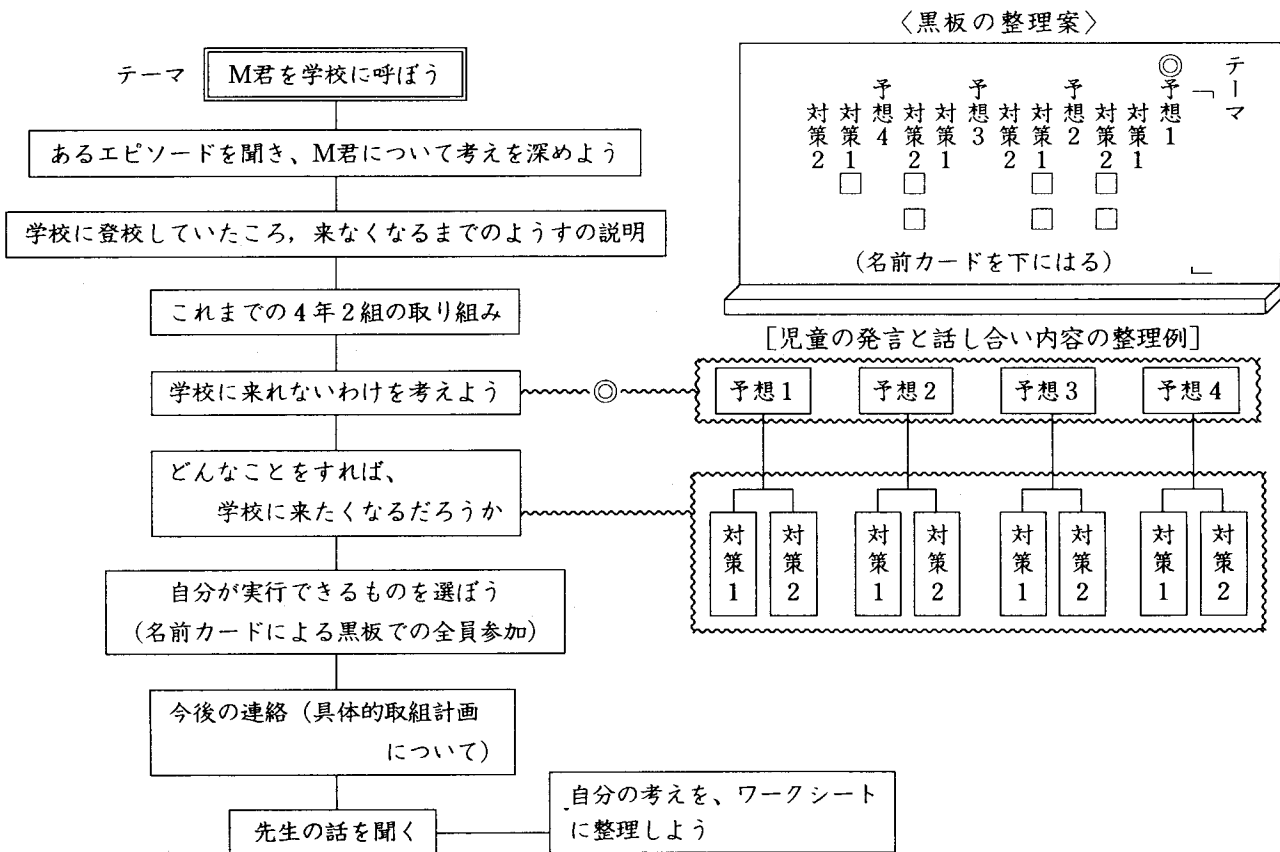
③ 活動の展開

話し合いの形式 [グループ討議]

時間	子どもの活動	担当	活動のねらい	留意点
4分	1. はじめのあいさつをする。 2. 4年2組の歌を、元気に歌う。 「それでは、歌いましょう。」 全員「4年2組のうた！」	級長 レク係	・授業開始のけじめ。 ・緊張を和らげ、話し合いへの意欲を持たせる。	・場の雰囲気を盛り上げるため教師も一緒に歌うようにする。
6分	3. 話し合い内容に入る。 ① テーマの発表 「M君を学校に呼ぼう」 ② 提案理由の説明 ・教師の話から、M君についてのエピソードを聞く。 ・M君の、これまでの経過。 ・M君についての、学級の取り組み。	級長 教師 副級長 "	・話し合いの目的と、今日までの経過を明確にする。 ・M君も、学級の一員であるという自覚を持たせる。 ・一人の友人について真剣に考えようとする姿勢を持たせる。	・テレビモニターに、M君のスナップ写真を映し出す。 ・経過の説明では、あらかじめM君のことを知る友だちから取材したものを読む。
5分	③ 話し合い活動 ア M君が学校に来れないわけを考えてみよう。 予想 ・友達とうまくいかない。 ・授業がおもしろくない。 ・教室に魅力がない。 ・行く勇気がない。	級長	・M君の気持ちを察しながら、来れない理由を考え発表することができる。	△発表, 発言<座席表チェック> (関・意・態)(表・技)(知・理) ・討議事項の場合は、級長の判断で、そのつど討議させる。 △グループでの話し合い<座席表> 発表内容 <グループ別> (関・意・態)(思・判)(知・理)
17分	イ. どんないことをしたら、学校に来たくなるだろうか。 予想 ・友達との関わり *やさしくしてあげる。 — 「みんないい子で仲良しだよ」「みんな、君の来るのを待っているんだよ」と、M君に伝える。 *お楽しみ会(パーティー)を計画する。 — ・計画内容をM君に伝える。 ・M君の家で、本人を交えながら計画する。	級長 発展	・相手の立場になって考え発表することができる。	△発表, 発言<座席表チェック> (関・意・態)(表・技)(知・理) ・討議事項の場合は、級長の判断で、そのつど討議させる。 △グループでの話し合い<座席表> 発表内容 <グループ別> (関・意・態)(思・判)(知・理) 具体的な行動の計画 電話 手紙 訪問 } などによって、 代表 親友 } が伝える。 学級役員 学級役員、親友が訪問して伝える。
	留意点・「相手の立場になって考えられたこと」に意義があることを、おさえる。			
	・授業との関わり *授業は楽しいと伝える。 — ・ようすを話して聞かせる。 ・授業風景をビデオで撮って見せる。			学級役員、親友が訪問して伝える。
	・教室との関わり *教室をきれいにする。 — ・壁にいろいろな飾りやポスターなどを貼る。 ・徹底的に掃除をする。 ・生き物(動植物)を飼う。			教室のようすをビデオや写真、話などによって、学級役員や親友が訪問して伝える。 ・M君の家に近い友人が迎えに行く。
	・M君の勇気との関わり *家まで迎えに行く。 — ・朝いつも、M君を迎えに行くことにする。			・順番を決めて、みんなで交代で迎えに行く。

分 3 分 1 分 3 分 5 分 1 分	<p>*学校へ行くときの気持ちを、話して聞かせる。</p> <p>*無理に、家から連れ出して登校させる。</p>	<p>・帰りにM君の家に寄り、学校へ行くときの自分の気持ちを伝える。</p>	<p>・自分の気持ちを紙に書いて、学級役員、親友が訪問して持って行く。</p> <p>・M君の家に遊びに行ったついでに、自分の考えを伝える。</p>	
	4. 決まったことを発表する。	副級長		
	5. 自分は、どれを実行するかを決めよう。 (全員前に出て、選んだものに名前カードを貼る)	級長	・思いやりの気持ちを行動として表すことができるようにする。	<p>・上記の行動計画は、次時に詳しく話し合う内容となるので、ここでは深く扱わない。</p> <p>・次回の計画を考え、選択は一つだけしておく。 △名前カード貼り (関・意・態)</p>
	6. 今後の連絡をする。	級長		
	7. 先生の話聞く。	教師		
	8. 自分の考えをワークシートに整理する。 (2人ほど発表する)	教師	・きょうの話し合いの様子を振り返り、友人に対する自分の考えをまとめさせる。	・ワークシートは、できるだけ自由記述ができるように配慮する。
	9. 終わりのあいさつをする。	級長		

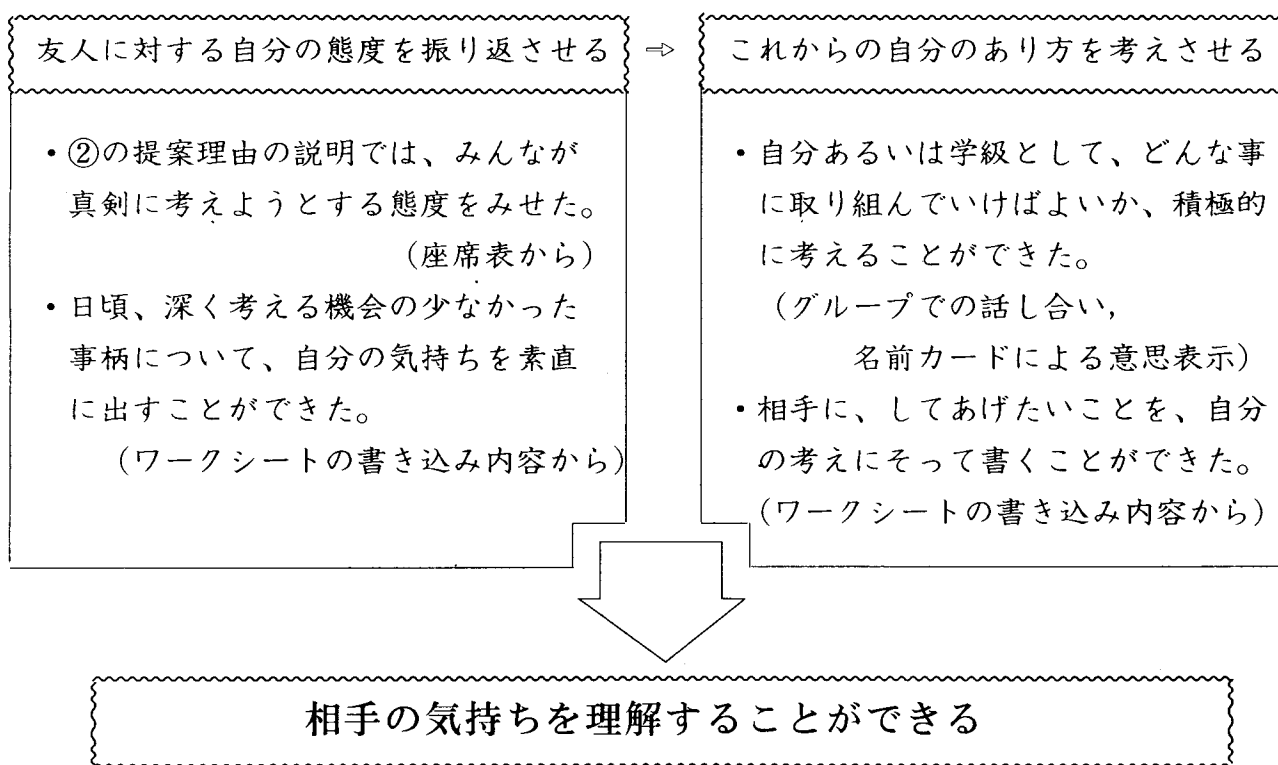
④ 話し合いの活動の柱立て



(4) 話し合い活動の観点別評価

観点別	観 点	評価の手だてとなる活動内容
関・意・態	自分の立場をとらえ、相手の立場になって考えようとしている。	<ul style="list-style-type: none"> ②提案理由の説明, ③の話し合い活動における、グループ活動や発表発言の様子。 ワークシートの書き込み内容。
思 考 ・判 断	良い方向に話し合い、問題を解決できる。	<ul style="list-style-type: none"> ③の話し合い活動イにおける、グループ発表, 発言の内容。 ワークシートの書き込み内容。
表 現 ・技 能	自分の意見の発表や司会進行ができる。	<ul style="list-style-type: none"> 発表, 発言の様子 ・司会進行の様子 4における名前カード貼りの様子
知 識 ・理 解	話し合いのルールや司会などのしかたがわかる。	<ul style="list-style-type: none"> 発言をするときの、司会とのやりとり。 司会進行のしかた。

(5) 授業仮説の検証



- 話し合い活動全般において、相手の立場になった活動をすすめることができた。

《話し合い活動後のワークシート書き込み》

ア もしもきみが、Mくんだったら、
きょうの話し合いをきいて、どう思いますか。
みんなぼくのために、こんなにいろいろなことをしてくれているんだな。

イ きみは友だちについて、どう思いますか。
かけがえのない家族のよう。

ウ 次の日に、書きたいことがあったら、ここに書いてね。
M君が、ゆづりていから、クラスにどけて、4年2組のいい思い出をつくらせたい。

ア もしもきみが、Mくんだったら、
きょうの話し合いをきいて、どう思いますか。
ぼくは、とてもみんなの気持ちがうれしくて、なごそうなるかな。

イ きみは友だちについて、どう思いますか。
ぼくたち人間には、なけりはないとて、たいせつなものだと思います。

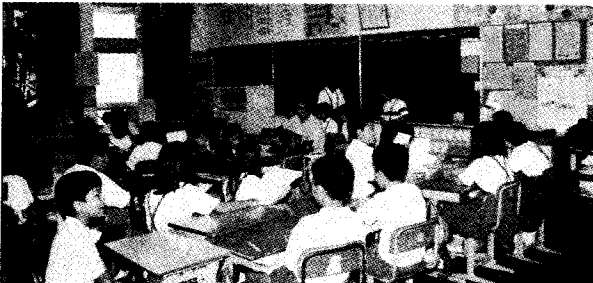
ウ 次の日に、書きたいことがあったら、ここに書いてね。
M君が、もしもこうにふきまきたら、みんな、どうぶつにもかえってあげたいです。

ア もしもきみが、Mくんだったら、
きょうの話し合いをきいて、どう思いますか。
おんははとてもやさしい。早く学校に行けるようにしたい。

イ きみは友だちについて、どう思いますか。
M君も4年2組で、みんなと同じクラスだから、M君に学校はたのしいよ。学校へいいたら友だちもいっしょにいたいです。

ウ 次の日に、書きたいことがあったら、ここに書いてね。
M君に早く学校へきてほしい。君は4年2組のおんはなの友だちだから、M君に学校へ早くきてほしいです。

《話し合い活動の様子》



(6) 授業研究会の反省 (☆よかった点 ○アドバイス ★今後の課題)

- ☆ 難しいテーマでありながら、子供たちが真剣に話し合いに参加していた。具体的な行動の計画までは出てこなかったが、4年生の取り組みとしては、あれで精一杯だろう。相手の立場になって、どの子もよく考えていた。
- ☆ 指導者が予想していた意見が、しっかりと出ていた。それだけ、子どもたちが深く考えている証拠だ。思いやりの心が反映される授業としては、良かった。
- 子どもの心に、相手の立場をより深く受け止めさせるために、それぞれの体験談を話させるという方法もよいのではないか。
- ★ 話し合い活動が、具体的な行動計画までは出ていないので、今後の継続した話し合いが大切となる。
- ★ 検証授業の中から、評価の観点となる資料と、研究仮説についての成果と課題を、明確に導き出しておきたい。

6 本研究における研究仮説の検証

研究仮説

- ① ワークシートの内容を工夫し、相手の立場になって考えさせることにより、周りのものを気遣うようになり、思いやりのある態度を養うことができるであろう。
- ② 話し合い活動において、友人の良さを見つけさせ、共感的にとらえさせることにより、思いやりのある積極的な行動ができるであろう。

=①の検証=

相手の立場になって考える工夫がされたワークシートを与えることにより・・・

周りのものを気遣うようになり、思いやりのある態度を養うことができたか。

- ・「友だちのよさ」発見カードを、帰りの会で日常的に活用することにより、友人の目立たない良いところにも、気配りができるようになってきた。また、それを自分の行動の中に取り入れようとする、発展的な態度がみられるようになった。
- ・相手の立場になって考えるワークシートを、授業において活用することにより、相手となる植物、動物、人間（友人）の立場を理解し、それぞれに対する思いやりの態度がみられた。

(次頁記入シート参照)

具体的には、トラブルに関する事前のアンケート調査 [項目 1(1)③④] で、

「相手にトラブルの原因があった」 _____ 96%

「自分にもトラブルの原因はあった」 _____ 82%

という回答結果が得られた。

次に、相手の立場になって考えるワークシート [項目 4(2)①] を活用した授業において、友人とのトラブルを想定した設問では、

「双方に悪いところがある」と答えた児童 _____ 97%

という結果となった。

ここでは、トラブルに関して「相手の立場になって考えた」児童がほとんどで、授業前に比べ、考え方において明らかな変容をとらえることができる。

トラブルを避ける手だてとしては、次のような回答があった。

「相手の頼みを聞いてやる」「無理な頼み事をしない」 _____ 52%

「言葉遣いが荒くならないように気をつける」 _____ 33%

「もんくの言い合いにならないように気をつける」 _____ 12%

「命令をするような言い方はしない」 _____ 3%

- ・トラブル後の和解の手助けとなるような「ごめんねシート」の活用により、うまく仲直りができるようになった。

《相手の立場になって考えるためのワークシートの記入例》

相手の立場になって考えてみよう
4年2組 番号 名前


1. 次のマンガを見て、お話を考えましょう。



女の子は、きれいな花を
ほちにうえました。



次の日は、ちゃんと水をかけ
ていました。



でも、次の日は、水かけを
せずに、あそびに
行ってしまいました。



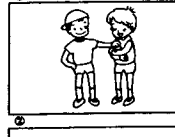
太陽に当たって、とうとう
かれてしまいました。

☆ 花は、こぼが枯せません。もし枯すことができるのなら、何か言いたいはずですが、あなたが花のかわりになって、話してみてください。

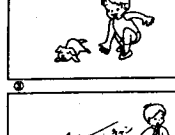
「いつも、水かけを わすれ 「かれそうになって も
ずにしてもらっていた。」 水をかけてもらいた
かった。」

相手の立場になって考えてみよう
4年2組 番号 名前


2. 次のマンガを見て、お話を考えましょう。



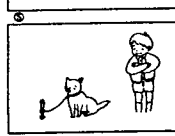
ゆうたくんは、子犬をかいました。おとき
んはのたくろうくんがきて、「かわいい子犬
だね」といってくれました。「よし」とゆうたく
んは「うれいワン」となきました。



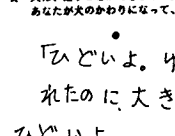
小犬が大きくなって、1才の時、ゆうたくん
は小犬に立つくんれんをさせました。
「がんばれもう少し」とゆうたくんはほげ
ます。



犬は大きくなり、ある日、ゆうたくんはでかけよう
としました。すると、犬は、「もっとあそびで
なきました。」



ゆうたくんは、大声で「うるさい」とし
かりました。犬はなくのをやめ、しん
ぼり。




「おすわり」とゆうたくんがいうといぬは
しんぼりおすわりをしました。
ゆうたくん は、にこにこ。

☆ 犬は、話すことができません。もし話すことができるのなら、何か言いたいはずですが、あなたが犬のかわりになって、話してみてください。

「ひどいよ。ゆうたくんぼが小さい時はなかよくしてく
れたのに大きくなるとあまりあそびで くないなんて
ひどいよ。」

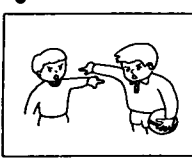
友だちとのケンカについて考えましょう。
4年2組 番号 名前

3. つぎのマンガを読んで、考えたことを書きましょう。




C君はD太郎君とケンカをしてしまいました。
まず、C君の席の前から通ろうとしたとき、
D太郎君が「そこ通るから、ちょっとバックしろ」
と、言いました。
すると、C君は「後ろから回って通れよ」
と言って、席をひいてくれませんでした。

↓



D太郎君はムッとでて、もんくを言いました。
C君も、もんくを言い返してきました。

→



そしていつのまにか、とっくみ合いのケンカに
なっていました。

☆ あなたは、なぜケンカになったと思いますか。くわしく書いてみてください。

「おたかいいに通る道をゆずり合わないから。」

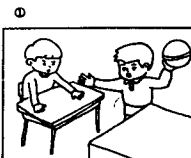
☆ ケンカがおこらないようにするためには、二人ともどんなことに気をつけなければならないでしょうか。

C君は…前から通らせてあげる。(D太郎君を)
D太郎君は…先に通らせてあげる。(C君を)

そしたら、ケシ力になりません。


友だちとのケンカについて考えましょう。
4年2組 番号 名前

3. つぎのマンガを読んで、考えたことを書きましょう。




C君はD太郎君とケンカをしてしまいました。
まず、C君の席の前から通ろうとしたとき、
D太郎君が「そこ通るから、ちょっとバックしろ」
と、言いました。
すると、C君は「後ろから回って通れよ」
と言って、席をひいてくれませんでした。

↓



D太郎君はムッとでて、もんくを言いました。
C君も、もんくを言い返してきました。

→



そしていつのまにか、とっくみ合いのケンカに
なっていました。

☆ あなたは、なぜケンカになったと思いますか。くわしく書いてみてください。

D太郎君が「そこ通るから、ちょっとバックしろ」とい
言葉がていねいじゃないからC君がつい後
ろからとおれよ、といった。それでD太郎君がもんくをいった。

☆ ケンカがおこらないようにするためには、二人ともどんなことに気をつけなければならないでしょうか。

C君は…後ろからとおれよ、といわれないでD太郎君にい
いよといえは、仲よくできたと思います。
D太郎君は…ちゃんとていねいな言葉をつかえば、
C君と仲よくできるとおもいます。

=②の検証=

話し合い活動において、

友人のよさを見つけさせ、共感的にとらえさせる ことができたか。

それによって

・検証授業での個人発表の内容では、

「いじめられたために、学校がこわくなった。」

「自分は学校では、役に立っていないと思っている。」

「授業がつまらないと感じている。」

「友人の態度が、本人にとっては、こわい。」

「自分が今特別扱いされているために、よけいに登校しにくい。」

などの意見が出された。これは、不登校である本人に否があるという考えではなく、本人の意思を尊重した意見である。また、その解決策について、個々でメモしたノートからも、周りの友人の努力によって良い方向へ向かわせようとする意見がほとんどだった。よってここでは、本人の立場をいくらかでも共感的にとらえようとしている姿勢がうかがえる。

思いやりのある積極的な行動ができたか。

・検証授業でのグループ発表の内容と、自分が実行できそうな項目に名前カードを貼ったときの人数は、次の通りである。

- 「自分の身の回りで起こった出来事を教えてあげたい。」
- 「学校での楽しい事を、話して聞かせてあげたい。」
- 「みんなで、はげましてあげたい。」
- 「学校で、M君の好きな科目を取り上げて、
楽しい授業をやってあげたい。」 2人
- 「授業で、M君がわからないところがあったら、
すすんで教えてい。」 7人
- 「休み時間になったら、いっしょに遊んであげたい。」 7人
- 「特別扱いをしないように気をつけて、
みんなと同じように遊びたい。」 11人
- 「M君が学校に来て、いつも来ていたような雰囲気
で遊びたい。」 2人

話し合いの内容としては、もう少し具体的な行動まで掘り下げた発言も欲しいところであった。しかし、「～してあげたい」という願望の段階まで話し合えたことは、大きな意義がある。以上の結果から、本時の話し合い活動においては、今後に発展的な面は残すものの、思いやりのある積極的な行動ができたといえる。

V 研究の成果と今後の課題

本研究は、学級での友人関係に着目し、学級経営を通して「思いやり」を育てる工夫について研究をすすめてきた。ここでは、「思いやり」を育てるためには児童への日常的なアプローチが重要だと考え、日常活動での実践と、授業実践の両面から取り組んできた。授業実践においては、道徳的指導を中心とした授業の他に、研究仮説の検証と今後の発展的な段階をふまえ、児童の主体的、自発的な行動を目的とした話し合い活動に取り組んだ。

1 研究の成果

《日常活動における工夫》

- ・「学級の歌」の作成と愛唱は、学級の結束力を強めるのに予想以上の効果を与えてくれた。作成の基本として、歌詞は学級全員から募集し、応募されたものを少しずつ組み合わせるように配慮した。また、曲は流行歌を取り入れ、替え歌のかたちにした。そうした工夫によって、学級の歌は、「朝の会」または「帰りの会」で毎日歌うことになり、学級生活に温かい雰囲気をもたらすものとなった。また、「友達発見」カードや「ごめんね」シートなどの、学級の生活で日常的に活用できる書き込み用紙によって、友人関係がより密なものとなり、相手の立場になって考える行為を、徐々に習慣づけさせることができた。

《授業における工夫》

- ・「立場をかえて考える」ためのワークシートは、日頃あまり気にしない動植物、また学級における友人関係に視点をおいて作成した。ワークシートの書き込み内容からみると、一つの行為に対する受動的な立場の感じ方や考え方、また双方の立場を理解させるといった目的を、自ら考えるかたちでうまく達成できた。また、話し合い活動では、学級全体が友人の立場を理解しながら協力していこうとする様子がみられ、「思いやり」を行為の一つとして表すことができた。
- ◎ 研究全体から、「思いやり」を育てるためには、学級経営における日常活動での取り組みを継続するとともに、授業の中で、相手の立場になって考える態度を育成していくことが重要であると再認識できた。

2 今後の課題

- (1) 「思いやり」を育てるための継続的な指導法。
- (2) 指導前と指導後の具体的な評価のしかた。
- (3) 「思いやり」を自発的な行動に移すための、具体的指導法。

<主な引用・参考文献>

- △宮川八岐 編著「明るい学級をつくる」小学館 1995
△大石勝男 編「話し合いのつまづきと指導」小学館 1985
△文部省「新しい学力観に立つ特別活動の授業の工夫」東洋館出版社 1995
△押谷由夫立石喜男 編著「思いやりの心を育てる」小学館 1991
△山崎林平 著「学級経営の内容と方法」明治図書 1982
△秋山政則 編「やる気を育てる小学校の学級経営」明治図書 1992